



CHIE FUKUDA

福田ちえの市政だより

福田ちえ後援会事務局 〒320-0841 宇都宮市六道町 12-38 <http://www.f-chie.jp/>
 電話: 028(636)2582 FAX: 028(636)2559 info@f-chie.jp



＝誰もが居場所と出番のある健康福祉都市＝

かつての日本は、物が無い貧しい生活から抜け出し健康で長生きすることが、めざすべきゴールでした。他方、人口が減少に転じ経済が安定期を迎えた今日、物質的な豊かさを手に入れた後の幸せの形を見つけられない。昔と違って今は、自分の人生をどう生きるか精神的にハングリーなのです。新たな幸せの形を見つけることは、私たちに与えられたテーマです。誰もが居場所と出番があり自分らしい人生を全うできる社会の姿を思い浮かべながら、令和元年9月議会で4期目初（通算21回目）の質問に立ちました。

質問要旨

【1】2025年問題への対応について

- ・地域別データ分析をどのように市の施策に展開していくのか
- ・認知症になっても安心して外出できるまちづくりについて
- ・地域共生社会の構築に向けて地域包括支援センターの負担軽減のための介護事業者等への委託や連携について

【2】市街地(本庁管内)における地域内交通の導入および移動手段の確保について

- ・市街地の交通弱者への対応、デマンド交通の必要性、市街地の地域内交通の検討状況について
- ・移動手段の確保に既存のタクシーを活用することについて

【3】健康福祉都市の推進について

- (1) 生活習慣病予防に係る行動変容ツールについて
- (2) 思春期・若年成人（AYA世代）のがん検診について
- (3) ヘルスリテラシーについて
- (4) 骨髄移植の推進について

【4】ひきこもりへの支援について

- ・40から64歳までの引きこもり状態やニート等の相談窓口及び支援体制、8050問題の行く末、中間的就労について

【5】人口減少時代の新しい社会教育について

- ・人口減少時代の様々な課題を受け止めていく地域づくりを進めるための、新しい地域づくりに向けた社会教育について
- ・多くの市民が地域社会の発展に貢献していく機運を高めるため、生涯学習課から地域教育課に名称を戻すことについて

【6】教育行政について

- ・21世紀を生き抜くために必要な教育改革への取り組み、学校づくりを進めるための教員体制及び教員の教育、子どもの遊びの確保、キャリア教育について
- ・多様性を認め合う社会（ダイバーシティ）にむけた取り組みについて
- ・「教育機会確保法」の捉え方、不登校状態の「親の会」の設置状況と連携、不登校児童生徒等の人数及び支援に繋がっていない人数、不登校に対する見解及び取組について

生活者の
視点で



【会派】

市民連合 副会長・政調会長

【常任委員会】

文教消防水道常任委員会 委員長

〔任期：2019年4月～2020年3月〕

常任委員会の政策討論テーマを

① 不登校について

② ICTを活用した学校教育の充実の2点に決定しました。今後、議員間討議を活発に行うとともに、先進地視察を実施してまいります。

【特別委員会】

誰もが生き生きと安心して暮らせるまちづくり調査特別委員会 委員

4期目スタート



4, 363票5位（投票率38.34%）

4月の統一地方選挙において4期目の負託をいただきました。みなさまへの感謝を忘れず、自己の研鑽に励み、驕らず、自分らしく、生活者の視点で、政策提言と行政チェックに尽力してまいります。

【1】2025年問題

地域別データ分析結果の活用は、科学的根拠に基づき健康づくりなどの計画策定や、新たな施策の企画立案、事業の効果検証などに活用し、地域に積極的に情報提供することで地域における健康づくりや支え合い活動等の市民の主体的な取り組みを促進する。

認知症について、国は6月に「認知症施策推進大綱」を示した。認知症サポーターが本人や家族に対する支援を実践できるよう新たな仕組みについて「地域包括ケア推進会議認知症対策部会」で検討する。

地域包括支援センターは本市の事情に沿った対応ができていたものと考えている。今後は、相談の複雑・多様化が見込まれることから、地域共生社会の実現を見据えて、多様な世代に対する切れ目ない包括的な相談支援体制について検討していく。

【2】市街地における地域内交通、移動手段の確保

公共交通が整っている市街地の生活交通は既存の路線バスの有効活用を基本とする。タクシーの活用は既存公共交通への影響が懸念されることから慎重に検討する必要がある。

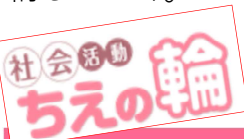
【3】健康福祉都市の推進

健康ポイント事業の更なる充実を図り、様々な行動変容に繋げ、生活習慣病対策に取り組んでいく。健康経営に関する情報サイトの開設による健康情報の発信などにより、市民の健康づくりを推進する。

【4】ひきこもりへの支援

「ふらっぷ（青少年自立支援センター）」で相談対応しており、40～64歳の相談窓口は設けてない、社協や保健所等で情報共有と連携を図り対応している。

中間的就労の場の設置は、「ふらっぷ」での社会参加体験事業や生活困窮者自立支援として就労支援準備事業などを実施しており、個々の状況に応じた適切な支援策について他自治体の取り組みを参考にしながら検討していく。



誰もが居場所と出番のある
地域共生社会の実現を目指して、
地域づくりの勉強会を開催しています。

【地域支え合い研究会】地域づくり勉強会（日時・場所・テーマ）

第29回 10月19日(土)18:00～21:00
宇都宮市文化会館第2会議室
テーマ 高齢者介護の発想転換（鎌倉から）
講師 中田光彦氏 著書「今をときめいて」他

第30回 11月30日(土)18:00～21:00
西原地域コミセンA B会議室
テーマ 知らなきゃ損！宇都宮市の予防事業
講師 市保健医療官・副参事 羽金和彦氏

第31回 12月21日(土)18:00～ 扇美
テーマ 2020年に向けて地域意見交換会

お問合せ・申込み:sasaeaikenkyukai@gmail.com

【5】人口減少時代の新しい社会教育

今年度新たに、本市が人材バンクの講師登録者支援しながら、自主講座の開催を促す仕組みを構築した。この講座の開催を通し新たな地域活動へつなげる取組みの強化を図っていく。生涯学習課から地域教育課へ変更は考えていない。

【6】教育行政

21世紀を生き抜くために必要な教育改革については、小学校全学年でプログラミング教育の実施、郷土について学ぶ「宇都宮学」の創設などに取り組む。学校運営推進リーダー養成研修を立ち上げ、人材育成に取り組んでいく。

子どもの遊びの確保については、子どもの生きる力や創造力を育むためには「遊び」の体験や、遊びを通じた仲間づくりは非常に重要だと認識している。「放課後子ども教室」において、遊びを含む体験活動の場を確保していく。

教育機会確保法については、「学校において全ての児童生徒が安心して教育を受けられる環境の確保」や「個々の不登校児童生徒の状況に応じた必要な支援」が不登校未然防止や改善にとって極めて重要であると捉えている。

親の会の設置や連携については、民間団体による「親の会」が設置されており、情報や悩みの共有は保護者の不安解消につながることから、活動内容を把握しながら「親の会」の連携の在り方について検討していく。**不登校数**は、平成29年度小学生187名、中学生546名、このうち適応支援教室に計85名が通級。このほか学校の別室登校や教育センター、民間フリースクール等の支援に繋がっており、支援に繋がっていないのは25名。

不登校に対する見解及び取組については、学校の取組により、不登校の改善が図られておりますが、新たに不登校となった児童生徒数が解消した数を上回っているため、不登校は減少には至っていない現状にあり、今後は、不登校の未然防止に特に力を入れる必要があると考えている。今年度立ち上げた「学級経営力向上プロジェクト」においてこれまで以上に未然防止に取り組むことにより、本市の不登校対策の一層の充実に努めていく。



世代や地域を越えて、
出会いと交流楽しみましょう！
●お問合せ、福田ちえ後援会へ

福田ちえ後援会 今後の行事予定
お問合せ：宇都宮市六道町12-38 TEL.636-2582

ちえ杯 ゴルフコンペ

10月29日（火）8:30集合
ニューセントラルゴルフ倶楽部

ふれあいバス旅行

11月24日（日）7:00事務所出発
いざ、鎌倉へ！ 鶴岡八幡宮、小町通り、鎌倉大仏殿



2020 福田ちえ後援会

新春の集い

2020年 2月7日（金）18:30受付